

長野の信陽食品と札幌の企業 経営者が意気投合

そ ば ロック聞かせた「SOBA」誕生

曲を聴きながら食事を楽しんで

そば製粉の信陽食品(長野市)はロック音楽を四六時中流して育てたソバの実を使った「ROCKIN' SOBA (ロックンそば)」をコンサルタント業のノースエレメンツ(札幌市)と共同開発した。両社の経営者が音楽好きで、意気投合。パッケージには実際に再生した曲のリストを表示するQRコードを印刷しており、畑や工場で「ソバが聞いた曲」とともに、食事を楽しむことを勧めている。

北海道士別市産のソバを使用。信陽食品は同市に契約農家があり、同市のソバを盛り上げようと企画した。ノースエレメンツの殿木達郎社長はかつて音楽業界で働いており、過去にはロックを聞か

せて育てた野菜「ロックンベジタブル」を企画したこともある。今回、ソバの生育に与えた影響は不明だが、少なくとも熊など野生鳥獣による農作物への被害はなくなったという。

畑で再生した曲は、殿木社長が中心になって選曲。ボン・ジョヴィやメタリカ、ディープ・パープルのヒット曲など洋楽を中心とする69曲で、邦楽からは北海道出身のロックバンドGLAYの曲などを選んだ。信陽食品の工場では、斉藤実会長が私物の高級スピーカーを設置し、畑と同じ曲を製粉や袋詰めなどの工程で流し続けているという。

1袋220g入りで、価格は未定。



スピーカー(奥)でロック音楽を流しながらそばを袋詰めする従業員

現在販売先を探しており、士別市や長野県内を皮切りに全国に販売を広げる予定だ。信陽食品の原田和代専務は「科学的根拠はないが、こしや甘み、そばの香りを強く感じる」。殿木社長は「音楽には目には見えない影響力があると思う。多くの人に食べてもらい、元気になってほしい」と話した。